

千葉港湾事務所の事業概要

国土交通省 関東地方整備局
千葉港湾事務所長 越智 紀昭



1. はじめに

千葉港湾事務所は、昭和41年、千葉県千葉市に運輸省第二港湾建設局千葉港工事事務所として開所以来、日本及び地域経済を支えるための港湾整備、並びに良好な港湾環境に資するための取り組みなど千葉港及び木更津港を中心に各種事業を進めてきました。

千葉港は、多くの船が行き交う東京湾の最も奥に位置し、市川市、船橋市、習志野市、千葉市、市原市、袖ヶ浦市にまたがる広大な港湾区域を有する、日本でも有数の国際拠点港湾です。その面積は約24,800ヘクタールと全国一の広さを誇り、貨物の総取扱量は名古屋港に次いで全国第2位と日本の経済活動を力強く支える大動脈としての役割を担っています。

木更津港は、木更津市、君津市、富

津市に位置し、約7,340ヘクタールの港湾区域を有する重要港湾です。千葉港と比較すると面積は小さいものの、千葉県南部地域の経済社会基盤を支える極めて重要な役割を果たしております。

今回は、現在取り組みを進めている事業のうち、千葉港千葉中央地区における「千葉港複合一貫輸送ターミナル整備事業」と千葉港海岸船橋地区における「千葉港海岸船橋地区海岸保全施設整備事業」をご紹介します。

2. 千葉港千葉中央地区

千葉中央地区は千葉港における公共埠頭の中心として発展してきましたが、コンテナ、完成自動車、RORO、一般貨物と荷姿の異なる貨物が混在し、また、貨物の需要増や船舶の大型化にも対応できていないという課題があったため、平成30年にふ

頭再編事業が計画されました。現在は、その第一弾として、RORO貨物需要の増加と船舶の大型化に対応した複合一貫輸送ターミナル(出州ふ頭D岸壁)の整備を進めています。

老朽化した既設の水深6m岸壁を約30m沖側に前出しし、水深9m、延長220mの岸壁を整備するもので、構造は控杭式の鋼管矢板構造を採用し、現在は、耐震強化を図るための液状化対策として事前混合処理土工法を用いた施工を行っています。

また、当該施設は東京湾から侵入する波を防ぐ施設がないため、以前より岸壁前面の静穏度が悪く、利用者の方々から防波堤整備のご要望が出されておりましたが、今年度から、鋼管矢板構造による防波堤の整備に着手することができましたので、今後も鋭意整備を進めて参ります。



3. 千葉港海岸船橋地区

千葉港海岸船橋地区では、ゼロメートル地帯を抱える背後地に、住宅地や企業が集積しているほか、市役所や消防署など重要な公的施設、千葉や成田空港と都心を接続する重要な交通網などが存在しています。台風等による高潮の被災に加え、首都直下地震が発生した場合、液状化により護岸・胸壁等が倒壊・沈下し、その後の津波等により広範囲かつ長期的な浸水被害が生じる恐れがあります。このため、地元関係者からの海岸保全施設整備に関する期待は非常に大きく、背後地域の貴重な生命・財産を守るべく、胸壁・護岸等のかさ上げや耐震化、水門・排水機場の機能向上や老朽化対策を着実に進めていくことにしております。現在は、胸壁のかさ上げ、耐震化を中心に整備を進めており、今年度末にはいよいよ新たな水門の整備に着手する予定としております。

4. おわりに

今後とも、港湾の整備を通じて首都圏並びに地域の発展に貢献するとともに、国民の生命・財産を守るための海岸整備が着実に進捗するよう、事務所一丸となって取り組んでまいりますので、引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願いいたします。

